

教育委員会会議 定例会

令和 7 年 4 月 2 4 日

提出議案綴

山梨県教育委員会

1 議 案

- 第 4 号 「日川高等学校グラウンド人工芝生化事業」に係る山梨県公募型プロポーザル方式事業者選定委員会委員の委嘱・任命について
- 第 5 号 統合型校務支援システム導入業務に係る企画提案審査会委員の委嘱・任命について
- 第 6 号 訴訟の対応について

2 報 告 事 項

な し

3 その他報告

- (2) 令和7年度山梨県公立小中学校における1人1台端末の導入業務について
- (3) 令和6年度山梨県新体力テスト・健康実態調査結果について

議案第 4 号

「日川高等学校グラウンド人工芝生化事業」に係る山梨県公募型プロポーザル方式事業者選定委員会委員の委嘱・任命について

[資料別途配付]

議案第 5 号

統合型校務支援システム導入業務に係る企画提案審査会委員の委嘱・任命について

[資料別途配付]

議案第 6 号

訴訟の対応について

[資料別途配付]

その他報告 2

令和7年度山梨県公立小中学校における1人1台端末の導入業務について

[資料別途配付]

(令和 7 年 4 月 2 4 日 定例教育委員会)

課名

保健体育課

件名	令和 6 年度 山梨県新体力テスト・健康実態調査結果について
内容	I 調査の概要 1 目的 本調査は、平成 1 7 年度より、本県独自に県内の公立小・中・高等学校・定時制高等学校の全ての児童生徒を対象に実施。県内の児童生徒の体力及び生活習慣の状況を把握・分析し、各学校における健やかな体の育成に活用。 ※ 文部科学省が実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（小 5 ・中 2 対象）においては、本県の児童生徒と全国平均値を比較・分析。 2 内容 文部科学省が定める調査要領 ○「新体力テスト」（8 種目）／握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ボール投げ ○「健康実態調査」生活習慣に関するアンケート(10 項目)／運動の実施頻度、運動時間、朝食摂取状況、睡眠時間、テレビ等の接触時間 など 3 時期 令和 6 年 4 月～令和 6 年 9 月 4 対象 約 65,000 人 (県内公立小・中・高等学校・定時制高等学校の児童生徒 男女各 16 学年)
	II 調査結果の概要 1 実技に関する調査 ○ 体力合計点が令和 5 年度を上回った学年数は、男子 9 学年、女子 5 学年 ・小学校は、令和 5 年度の結果と比較し大きな変化は認められない。 ・中学校は、1 年生男子以外で令和 5 年度の結果を上回り、特に 2 年生男子は過去 10 年間で最高値。 ・高等学校（全日制）は、女子の全ての学年で令和 5 年度の結果を下回った。 ○ 過去 10 年間で結果が最も高かった主な測定種目 ・長座体前屈（男子 6 学年、女子 3 学年で最高値） ・立ち幅跳び（男子 3 学年、女子 1 学年で最高値） ・ボール投げ（男子 3 学年、女子 1 学年で最高値） ○ 過去 10 年間で結果が最も低かった主な測定種目 ・握力（男子 6 学年、女子 5 学年で最低値） ・20m シャトルラン（男子 5 学年、女子 8 学年で最低値） ・50m 走（男子 5 学年、女子 9 学年で最低値） 2 健康実態に関する調査 ○ 「ほとんど毎日」運動すると回答した割合は、令和 5 年度より男子では 10 学年、女子では 7 学年で増加。特に、中学生は、男女ともすべての学年で増加。 ○ 朝食を「毎日食べない」と回答した割合は、令和 5 年度より小学校では男子 4 学年、女子 3 学年で増加。中学校では男子 1 学年と女子全学年で増加。学年が上がるとともに増加する傾向。 ○ 1 日の睡眠時間が「8 時間以上」と回答した割合は、10 年前と比べて、小学校では男女とも全ての学年で減少。中学校では 3 年生女子を除く全ての学年で減少。

- テレビ・スマートフォン等の使用時間が「平日１日３時間以上」と回答した割合は、10年前と比べて、男女とも全ての学年で増加。特に、中学校及び高等学校は、男女とも全ての学年において過去10年間で最高値。

3 健康実態調査項目と体力合計点との関係

- 毎日朝食を食べると回答した児童生徒の体力合計点は、それ以外の児童生徒と比べて概ね高い。
- テレビ・スマートフォン等を視聴する時間が1時間未満と回答した児童生徒の体力合計点は、3時間以上の児童生徒と比べて高い。

4 考察

- ・学校教育活動をはじめとする様々な体育的活動がコロナ禍前に戻り、運動時間の確保や体力向上に取り組む機会が増えたことなどにより、特に中学生を中心に児童生徒の体力は概ね回復傾向。
- ・これまで実施してきた「もっと楽しい体育授業で体力アップ事業」において、投運動を中心とした運動プログラムを各小学校に普及したことにより、ボール投げの結果は向上傾向である。
- ・走力、全身持久力に課題があるため、走る、跳ぶなどの運動を子どもたちが継続して楽しむ機会を設ける必要がある。
- ・日常的に運動をする習慣をつけることをはじめ、食事・休養を含めた望ましい生活習慣の形成も体力向上には重要であると考えられる。

Ⅲ 今後の対応策

児童生徒が運動の楽しさを実感し、自ら進んで運動に取り組むことができるようにする。

- 令和7年度から新たに「子どもの運動習慣推進事業」を実施
 - ・幼稚園教員・小学校教員等を対象にした運動遊びの講習会を実施し、幼少期からの運動の習慣化を図る。
 - ・運動の楽しさに着目した運動プログラムの開発と外部指導者による指導の実施により、自発的な運動習慣の定着を図る。
 - ・開発した運動プログラムをもとにした動画の作成と家庭への周知により、保護者も含めた運動習慣の形成を図る。
 - ・子どもの体力や運動習慣等について、専門的な知見に基づく調査分析を行い、取組の工夫・改善に努める。
- 楽しい体育授業づくりの工夫と運動時間や運動内容の改善
 - ・走力、全身持久力の課題解決につながる運動を、児童生徒が楽しみながら進んで行うことができるよう、授業内容の改善を図る。
- 小学校の休憩時間における運動遊びの奨励
 - ・授業で楽しいと感じた運動を、休憩時間においても親しむことができるよう、各学校での休憩時間の活動内容の工夫を進める。
- 目指せ!やまなしチャンピオン（小学校）
 - ・全県の小学生が、なわとび、ロングランニングなどの記録を競い合うことを通して、運動の習慣化を図る。
- 健康・体力つくり一校一実践運動
 - ・各学校が、自校の体力の課題を踏まえ、望ましい生活習慣や運動習慣の定着を通じて体力向上を図るためのプログラムを計画し実行する。